

# 在宅勤務（リモートワーク）増加に伴う子育て負担と子どもへ与える影響の実態調査報告書

2022年3月

NPO法人全日本育児普及協会

## はじめに

コロナ禍によってテレワークが増える中で、子育ての環境がガラリと変わりました。約20年前から共働き家庭が増え続けていますが、家事育児の分担は母親に偏り、母親だけが仕事・家事育児というマルチタスクを強いられている家庭が今でも多くあります。そんな環境の中で、夫婦揃ってのテレワーク。

夫婦や家族と一緒に家にいる時間が増えたことで、コミュニケーションが深まるといったプラスの効果を生み出すことができた家庭もある一方、夫婦ともに在宅勤務となったことで、夫婦間やこどもとのコミュニケーションにストレスを感じた家庭もあります。この違いはどこにあるのでしょうか、又、どうすれば改善できるのでしょうか。

本調査で得られたデータを通じて、少しでも良い改善策を見つけていただくことで、子育て支援に活用いただけましたら幸いです。

## NPO法人全日本育児普及協会 代表理事 佐藤 士文

- ◆法人名 NPO法人全日本育児普及協会
- ◆代表理事 佐藤 士文
- ◆設立年月 2013年2月
- ◆会員数 40人
- ◆主な活動分野 こどもの健全育成
- ◆主な活動内容 父親支援、子育て支援の講座・講演会など
- ◆活動拠点 横浜市・神奈川県
- ◆HP「全日本育児普及協会」で検索 <http://ikujifukyu.com/>



◇委託事業 横浜市父親支援事業 市内50か所90講座を実施

## 背景

生活様式が一変、子ども達への影響が不明

園での親同士のつながりが希薄に

親子の居場所が制限、地域の遊び場閉鎖

在宅勤務者が増加、家事育児時間の増加

1. 南関東エリアでテレワークを導入している企業は27.1%。(総務省情報通信統計データベース【通信利用動向調査企業編(令和元年度版)】)  
全国でテレワークを利用している者は、就業者(n=)40,000サンプル数のうち15%(6,180)。(国土交通省【平成30年3月発表資料(平成29年度のテレワーク人口実態調査)】)。2020年度のデータは未発表)
2. 2020年5月末時点の在宅勤務実施率は、男性で54.0%、女性で53.5%。  
対象:最初の緊急事態宣言中、従業員500人以上の企業に正社員として勤める男女  
(野村総合研究所 2020年6月発表【新型コロナウイルス感染症拡大に伴う在宅勤務等に関する調査(事前調査)】)
3. 中学生以下の子を持つ男性・在宅勤務実施者のうち、57.3%が、「家事や育児にかかる時間が増えた」と回答。  
(野村総合研究所 2020年6月発表【新型コロナウイルス感染症拡大に伴う在宅勤務等に関する調査(事前調査)】)
4. 保護者のメンタルヘルスをPHQ-9で計測した結果、0歳～5歳児までの保護者の13%に中等度のうつ傾向がみられた。  
また、最低20%が子どもに対し好ましくない対応(感情的にどなった、たたいた等)をとったと回答している。  
(国立成育医療研究センターによる【第4回コロナ×子どもアンケート:実施期間:2020年11月～12月(2021年2月発表)】)

## 目的

アンケート調査から 子育ての負担感や  
子ども達への影響の実態を把握する

調査期間	2021年10月 ~ 2022年1月
調査協力	横浜市内の子育て支援施設・保育園・幼稚園・認定こども園 子育てグループ・地域企業など調査協力依頼(110か所)
調査対象	横浜市在住の0歳~6歳の未就学児の保護者
調査方法	Webフォームを使ったインターネット調査及び紙媒体アンケートによる調査
アンケート分析協力	東京工業大学 中谷桃子 准教授
アンケートまとめ考察	大阪教育大学 小崎恭弘 教授
アンケートまとめ	NPO法人全日本育児普及協会・パパライフサポート 池田浩久

## 仮説

**在宅勤務者は全体の2割程度と想定  
在宅勤務となった2割の保護者の家事育児時間は増加  
その2割の家庭環境は悪くなっていると仮定する**

- 単純に育児時間が長く疲弊している
- 夫が自宅にいることで余計悪化している
- 仕事が思い通り進まず、悩んでいる

## その結果としてのこども達への影響を計る

残り8割に対しても コロナ禍の前後でどう変わったか  
育児に対する不安や、好ましくない対応 など  
**一定の影響やその理由が見えるのではないか！？**

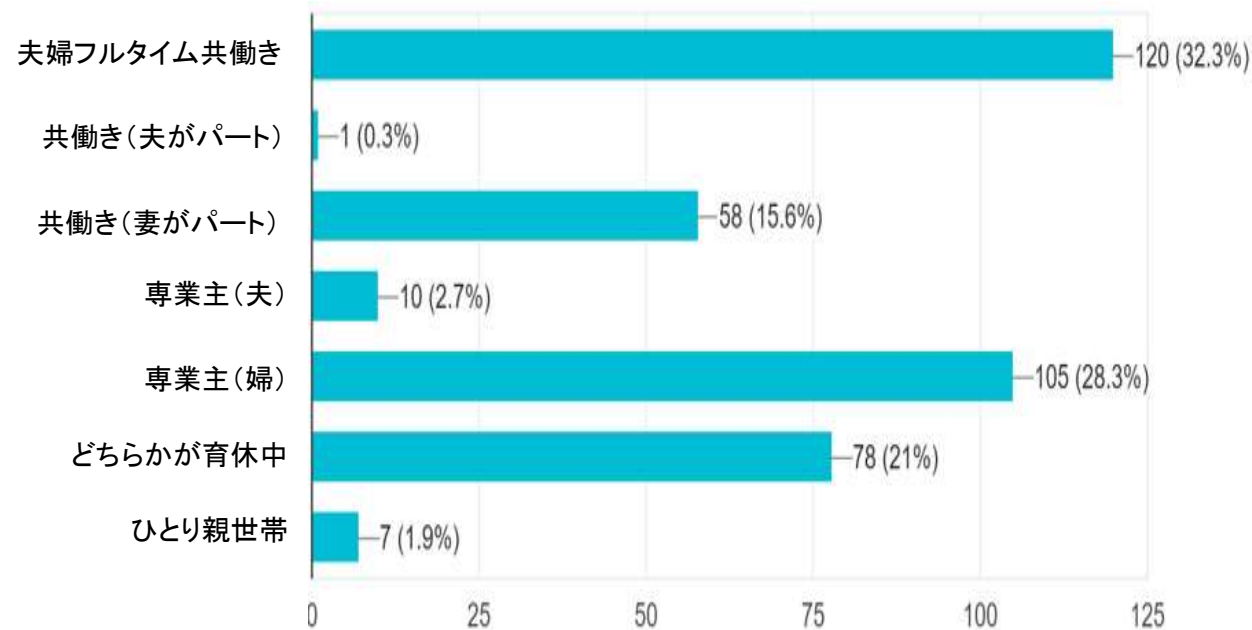
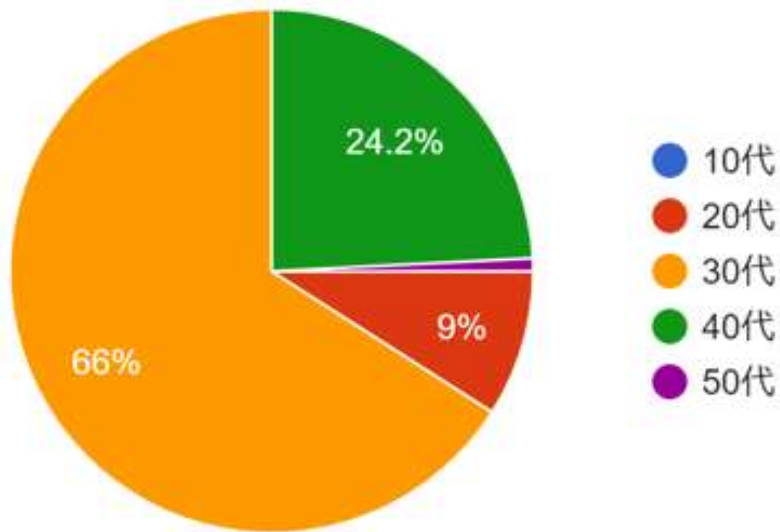
アンケート配布数 約1100(110か所) : 回答数(n) 376件

横浜市全区(18区)の保護者から回答あり

Q1, 回答者 [ パパ:53.5%、ママ:46.5% ]

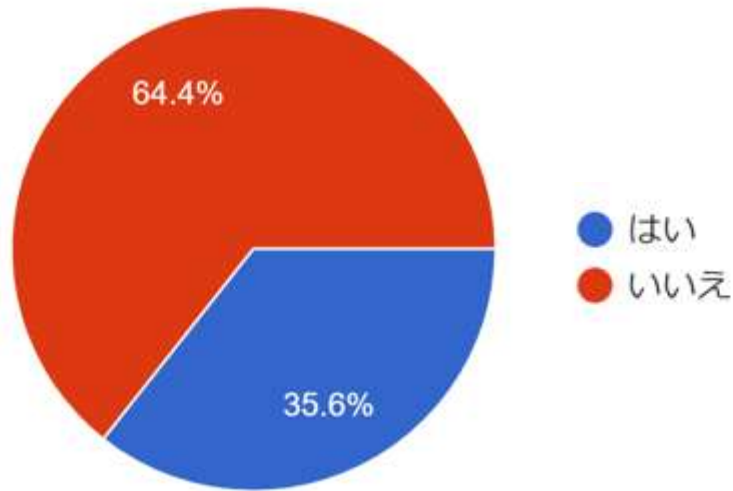
Q2, 年代

Q3, 世帯の雇用状態

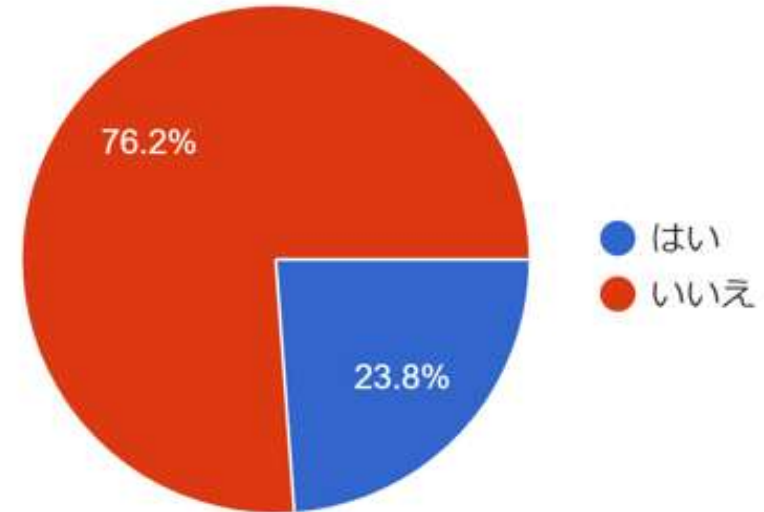


# 調査結果：在宅勤務状況

Q5, ご自身は在宅勤務(テレワーク)を利用していますか？ (n=376)



Q6, パートナーは在宅勤務(テレワーク)を利用していますか？ (n=365)

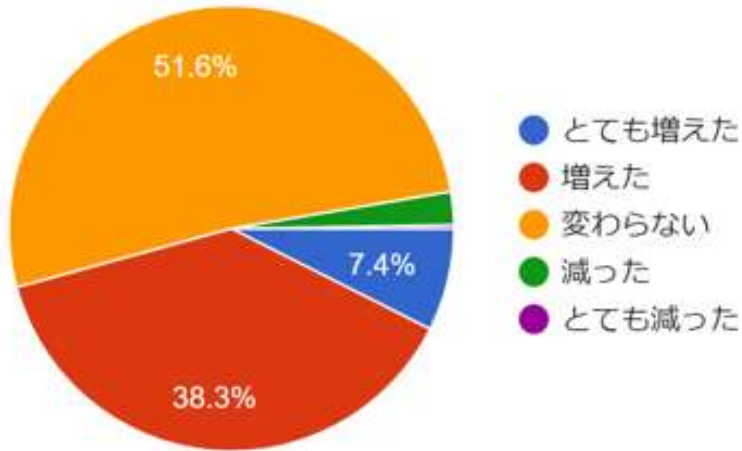


働き方による分類		パートナーの出勤状況			
		在宅	出勤	専業	合計
自身の出勤状況	在宅	43	55	32	130
	出勤	32	126	34	192
	専業	15	32	0	47
	合計	90	213	66	369

夫婦で在宅勤務 43 (8.6%)  
 どちらかが在宅勤務 134 (36.3%)  
 在宅勤務ではない 192 (52%)

**半数が在宅勤務(テレワーク)を利用している**

## Q7, コロナ禍でそれ以前と比べ家事をやる時間に変化はありましたか？ (n=376)



全体では、45.7%が家事時間が増加したと回答。

働き方別では、在宅勤務者が家事時間がより増加したと感じる傾向にあり、特にパートナーが出勤、または専業の場合に、家事時間が増えたと感じていた(①)。

また、自身が出勤の場合、パートナーが出勤よりも在宅の方が家事が増えたと回答していた(②)。

逆に、自身が在宅の場合、パートナーが在宅よりも出勤のほうが、家事負担が増えたと感じていた(③)。

①パートナーが出勤の場合、自身が出勤している人/専業の人よりも、自身が在宅勤務をしている人のほうが、家事時間が増えたと感じている (p<0.01)

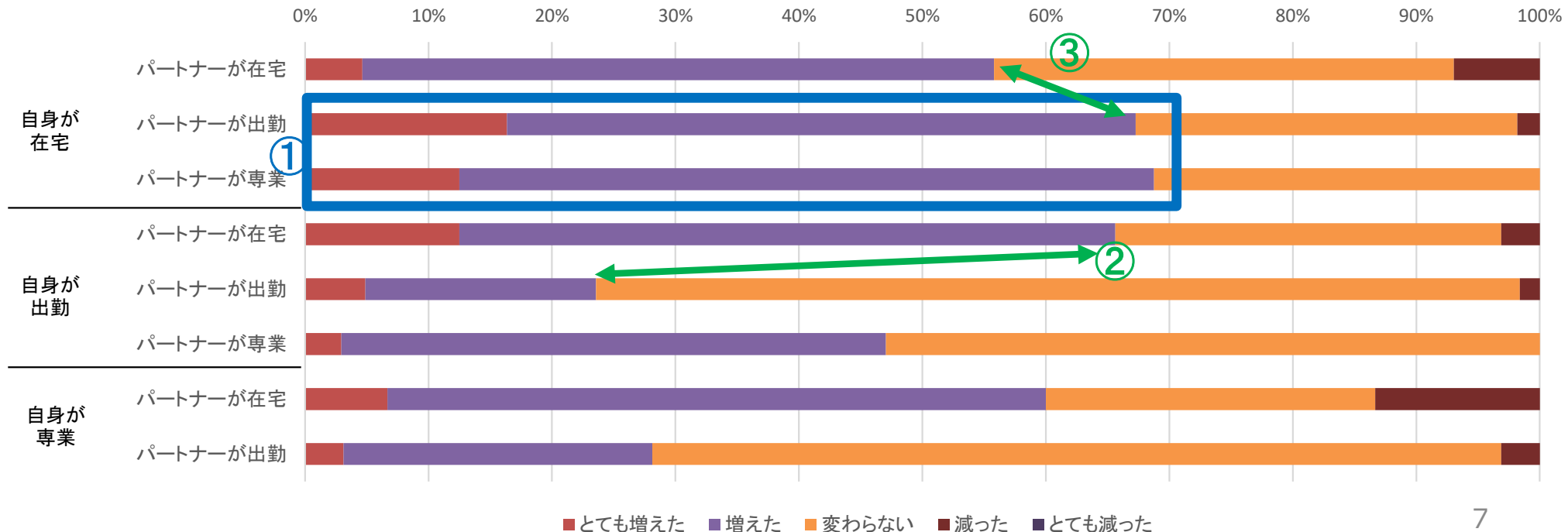
パートナーが専業の場合、自身が出勤の人に比べ、自身が在宅勤務の人のほうがより家事時間が増えたと感じている。(p<0.05)

②自身が出勤の場合、パートナーが出勤よりも、在宅のほうが家事が増えたと感じている (p<0.01)

③自身が在宅の場合、パートナーが在宅よりも、出勤のほうが家事が増えたと感じている (p<0.05)

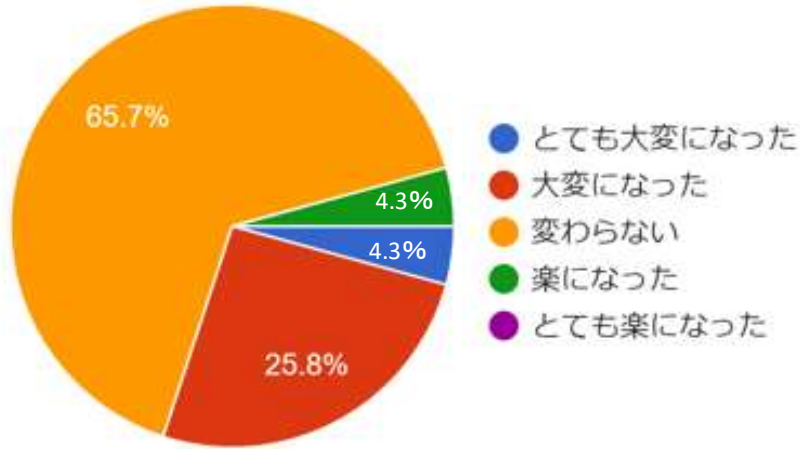
⇒コロナ禍で在宅勤務者が増え、家事時間も増加

働き方別





## Q8. 家事をする時間が変化することで気持ちの変化はありましたか？ (n=376)



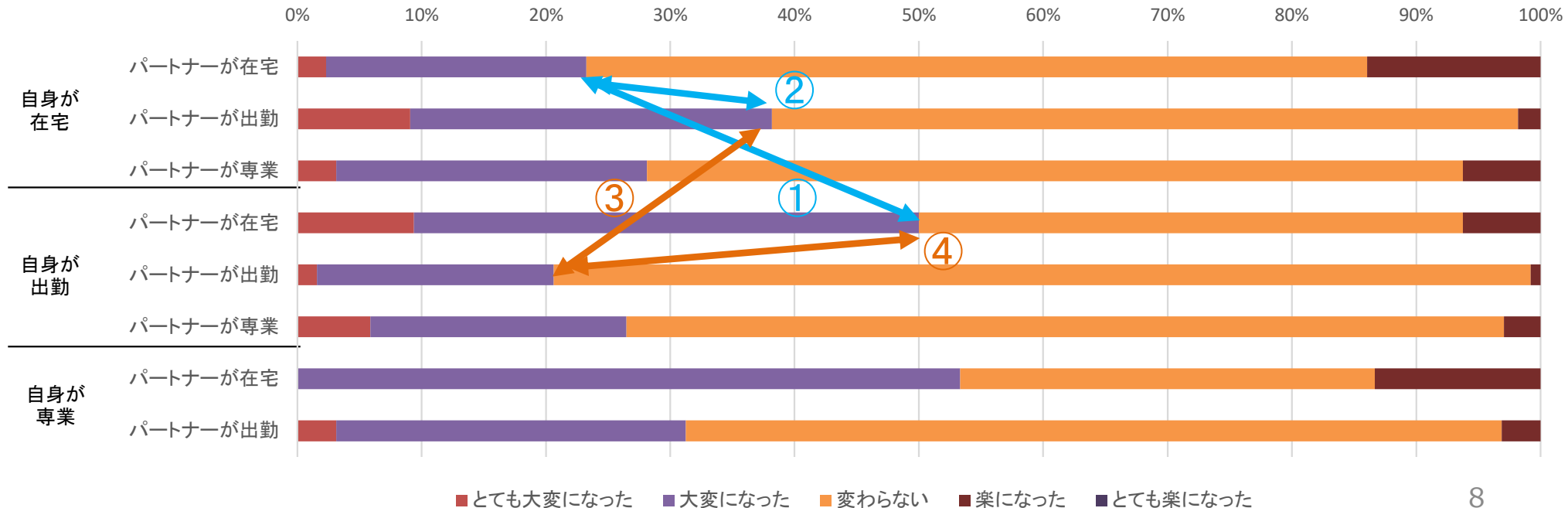
全体では、30%が家事時間が変化したことにより大変になったと回答。

働き方別では、自身・パートナーの両者が在宅の場合、その他に比べて、楽になったと回答する傾向が強い(①や②で統計的有意差あり)。一方、どちらかが出勤している状態では、両者が出勤しているよりも、自分・またはパートナーが在宅しているほうが大変になったと回答する傾向にあった(③④)。

- ① パートナーが在宅の場合、自身か在宅の人よりも、出勤の人のほうが大変になったと回答 (p<0.05)
- ② 自身が在宅の場合、パートナーが在宅の人よりも、出勤の人のほうが大変になったと回答 (p<0.05)
- ③ パートナーが出勤の場合、自分が出勤の人よりも、在宅の人のほうが大変になったと回答 (p<0.05)
- ④ 自身が出勤の場合、パートナーが出勤の人よりも在宅の人のほうが大変になったと回答 (p<0.05)

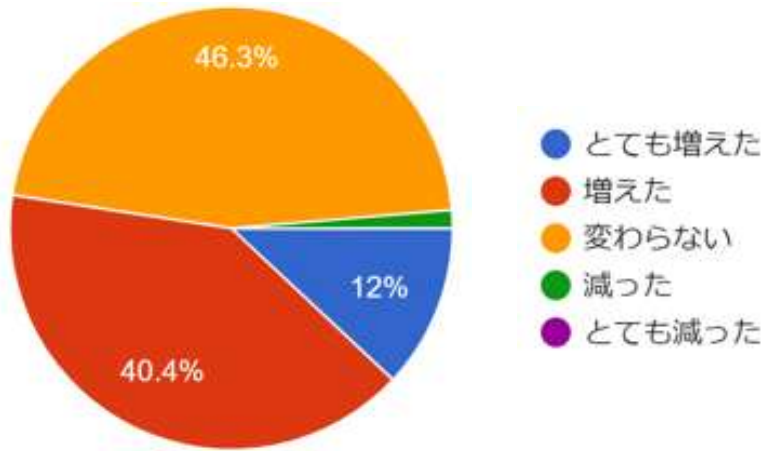
**⇒3割が家事時間増加で大変になったと回答  
夫婦ともに在宅、夫婦ともに出勤より、どちらかが在宅の方が負担感が増す**

働き方別





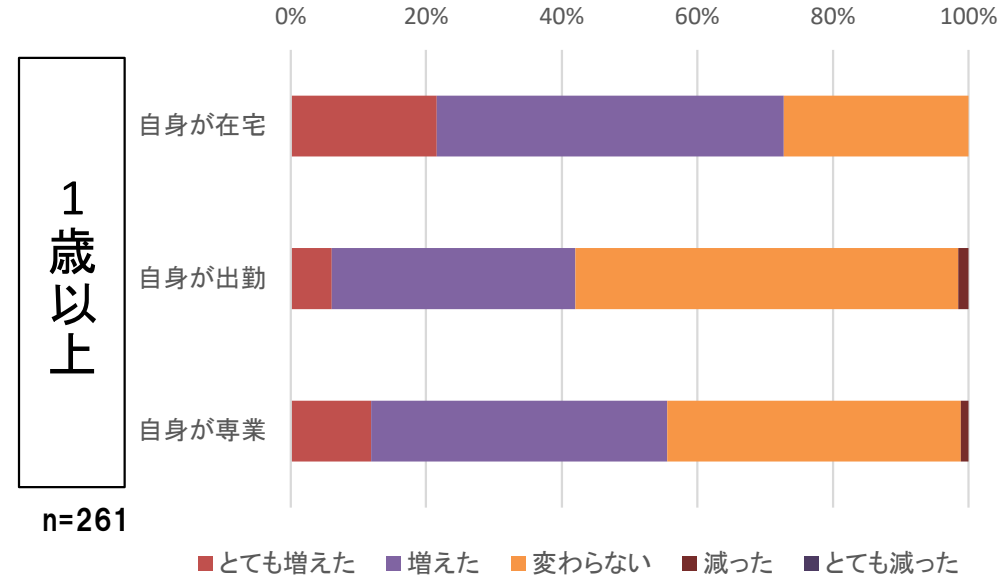
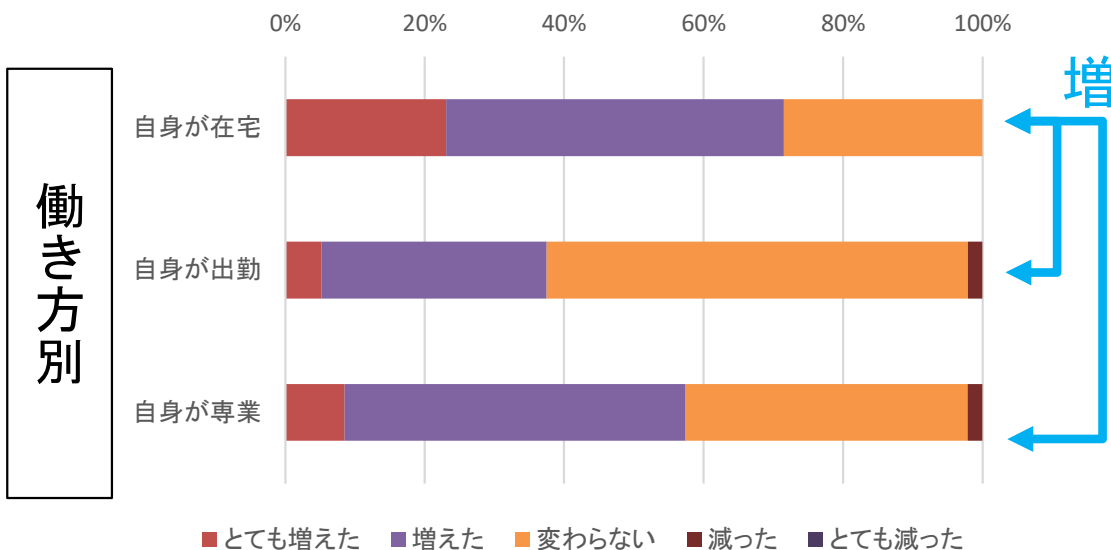
## Q9, コロナ禍でそれ以前と比べ子どもと一緒にいる時間に変化はありましたか？ (n=376)



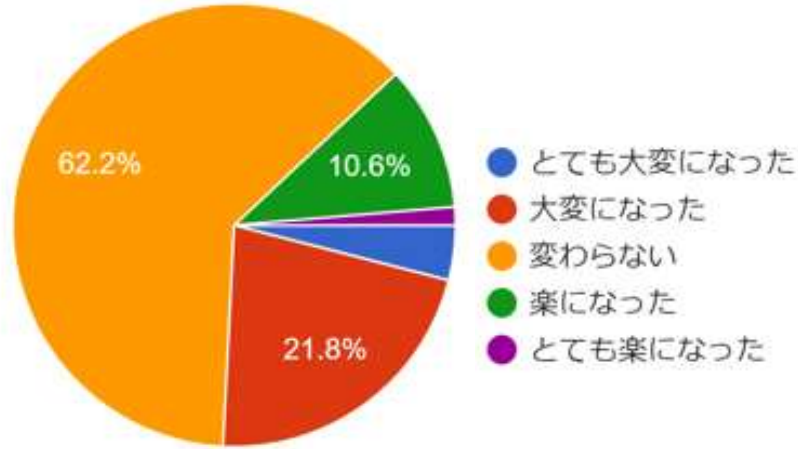
全体では、52%が「子どもと一緒にいる時間が増えた」と回答。  
働き方別では、パートナーの働き方に関わらず、自身が在宅の場合、出勤や専業の場合と比較して、子どもと一緒にいる時間が増加している傾向にあった。

交互作用が有意ではない。  
パートナーの出勤状況に関わらず、自身が在宅の人は、出勤の人と比較して、有意に子どもと一緒にいる時間が増加 ( $p < 0.01$ )  
パートナーの出勤状況に関わらず、自身が在宅の人は、専業の人と比較して、有意に子どもと一緒にいる時間が増加 ( $p < 0.05$ )  
0歳児のみの家庭を除いた有意な差も見られた ( $n=261$ )。自身の出勤状況の主効果が有意。

**⇒コロナ禍で子どもと一緒にいる時間は全体的に増加傾向にあり、在宅勤務者が最も子どもと一緒にいる時間が増えたと回答**



## Q10. こどもと一緒にいる時間が変化したことで気持ちの変化はありましたか？ (n=376)



全体では、25.8%が「こどもと一緒にいる時間が増えたことで大変になった」と回答。一方で、11.9%が「こどもと一緒にいる時間が増えたことで気持ちが楽になった」と回答。働き方別では、パートナーの働き方により、差がみられた。パートナーが出勤している場合、パートナーが在宅者と比較し、より大変になったと感じている。1歳以上でも、パートナーが出勤の場合に差が見られた。パートナーが出勤している場合、パートナーが在宅・パートナーが専業と比較し、より大変になったと感じている。(0歳児を含む場合より信頼度が高い)

交互作用が有意ではない。  
パートナーの出勤状況に主効果がある。  
パートナーが在宅と出勤で有意差が見られる ( $p < 0.01$ ) 在宅 > 出勤 (1歳以上)  
パートナーが出勤と専業で有意差が見られる ( $p < 0.01$ ) 出勤 < 専業 (1歳以上)  
2歳以上では有意な差はみられない。

⇒自身が在宅でも、パートナーが出勤している状態では、負担感が増す傾向にある。

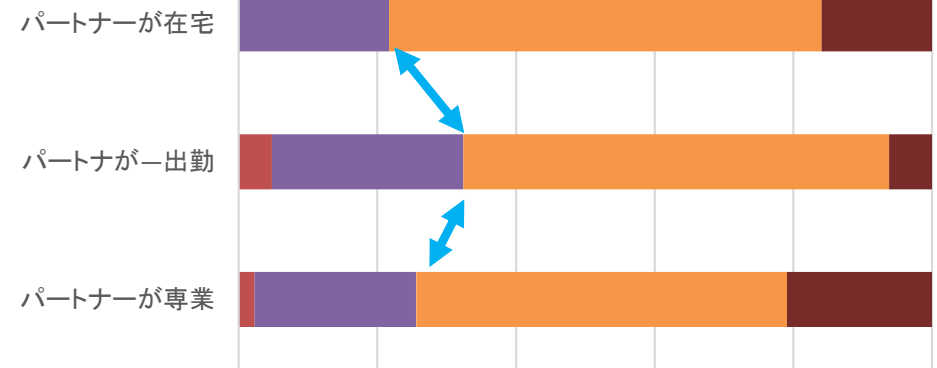
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ とても大変になった ■ 大変になった ■ 変わらない ■ 楽になった ■ とても楽になった

n=369

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ とても大変になった ■ 大変になった ■ 変わらない ■ 楽になった ■ とても楽になった

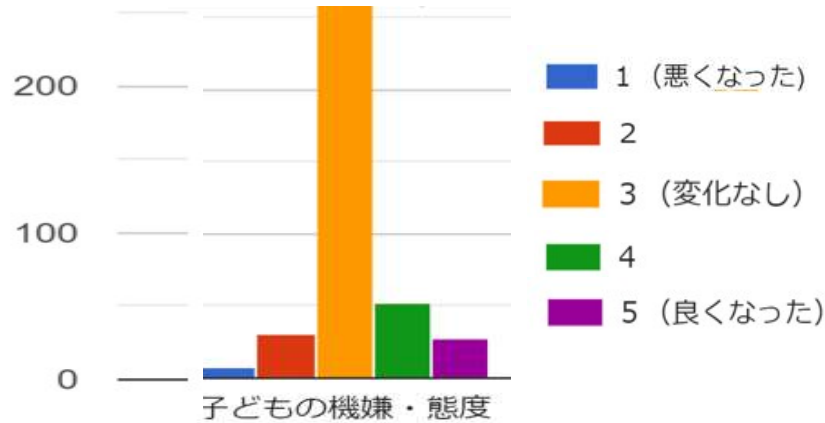
n=257

働き方別

1歳以上

## Q11-A, コロナ禍でご自身が感じる[こどもの機嫌・態度]の変化について (n=376)

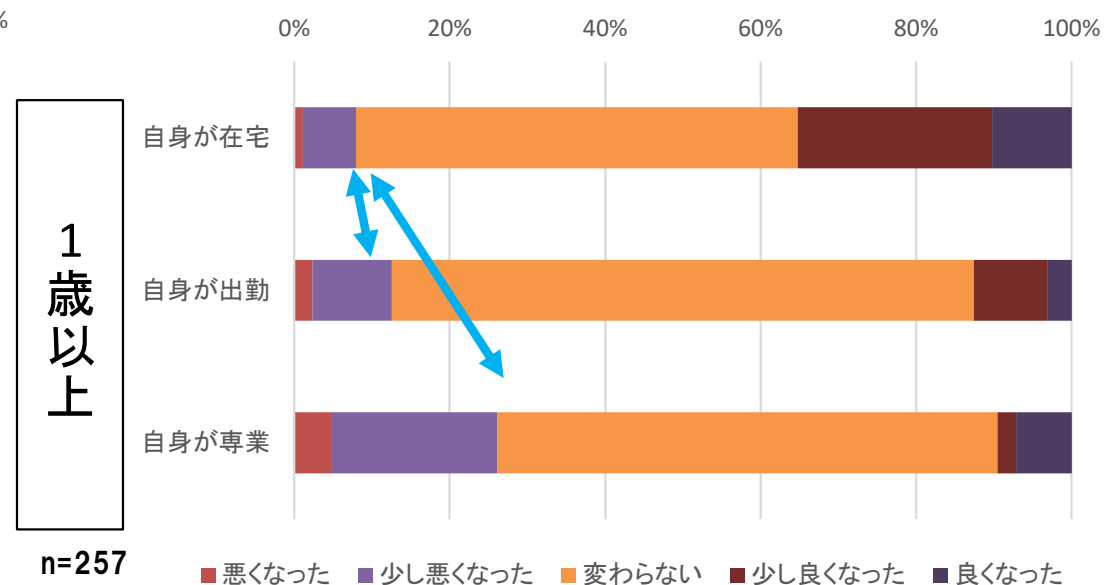
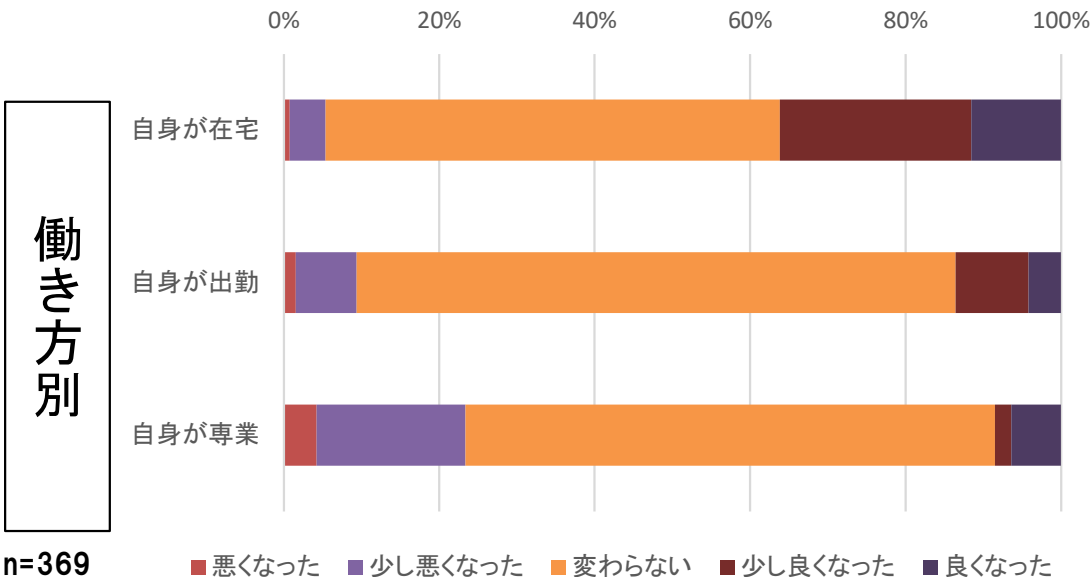
<例:良くなった(余裕が出来た・笑顔が増えた等)> <例:悪くなった(イライラが増えた、喧嘩や叱ることが増えた等)>



全体では、70%が「こどもとの様子に変化はない」と回答。  
 10%が「悪くなった」と回答する一方、21%が「良くなった」と回答。  
 働き方別では、1歳以上に有意な差がみられる。パートナーの働き方に関わらず、自身の働き方が在宅の場合、出勤や専業に比べ、こどもの機嫌・態度が良くなったと回答している。

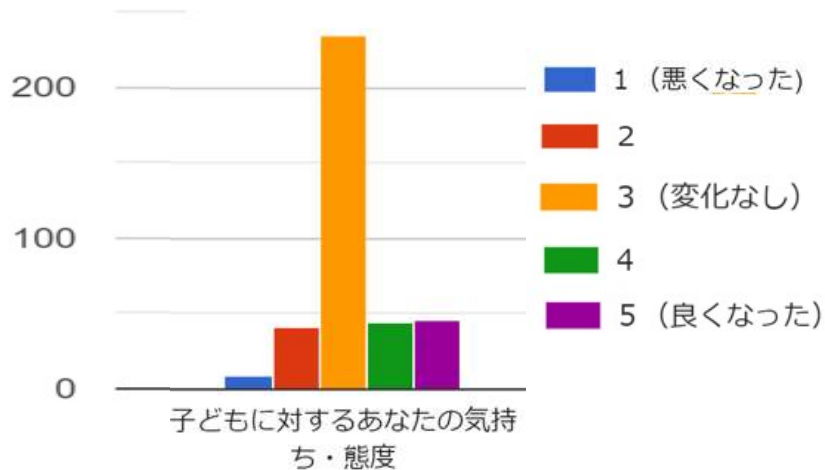
交互作用が有意ではない。  
 自身の出勤状況に有意な差(p<0.01)が見られる。  
 在宅者は良くなったと回答する割合が出勤・専業に比べて高い

**⇒コロナ禍となり、自身が在宅勤務になったことで、こどもの機嫌・態度は良くなったと感じる傾向があり、こどもとの関係が良好になったと感じる割合が高い。**



## Q11-B, コロナ禍でご自身を感じる[子どもへの気持ち]の変化について (n=375)

<例:良くなった(余裕が出来た・笑顔が増えた等)> <例:悪くなった(イライラが増えた、喧嘩や叱ることが増えた等)>

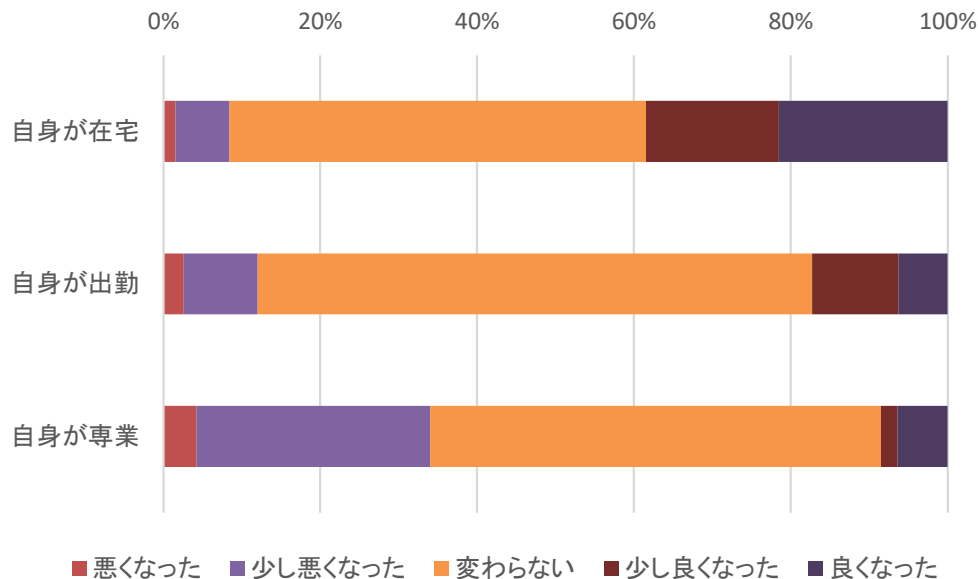


全体では、62.7%が「変わらない」、13.3%が「悪くなった」、24%が「良くなった」と回答。  
働き方別では、パートナーの働き方に関わらず、自身が専業>出勤>在宅、の順に「悪くなった」と感じる傾向がある。  
また、1歳以上に有意性がある。

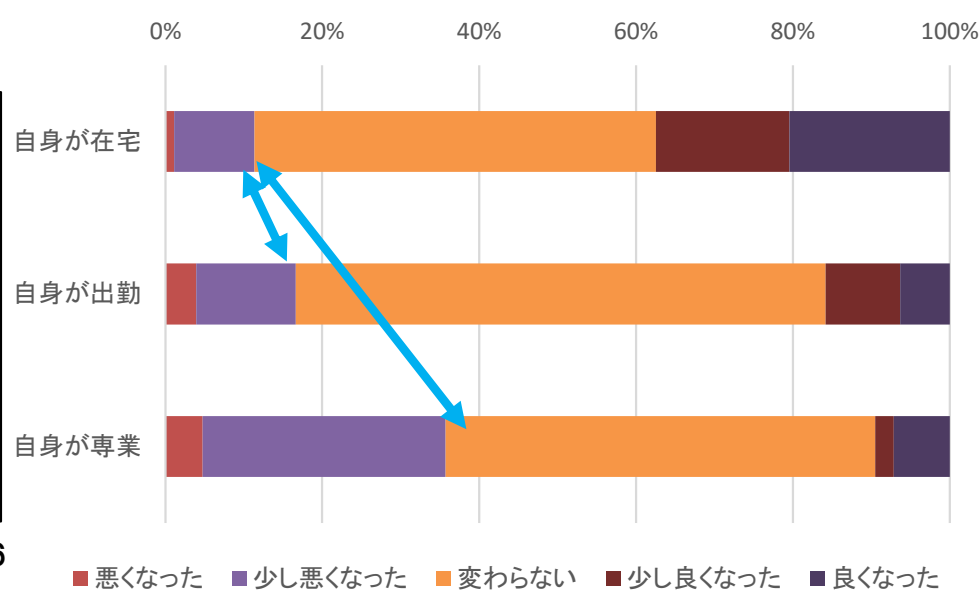
交互作用が有意ではない。  
自身の出勤状況に有意な差 ( $p < 0.01$ ) が見られる。  
在宅者は良くなったと回答する割合が出勤・専業に比べて高い

⇒コロナ禍となり、自身が在宅勤務になったことで、子どもに対する気持ちが良くなったと感じている割合が高い。  
⇒自身が専業の場合は、悪くなったと感じる傾向にある。

働き方別

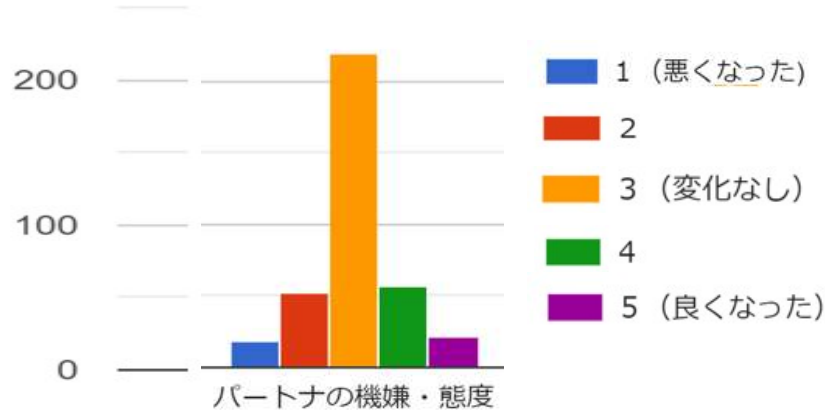


1歳以上



## Q11-C, コロナ禍でご自身を感じる[パートナーの機嫌・態度]の変化について (n=368)

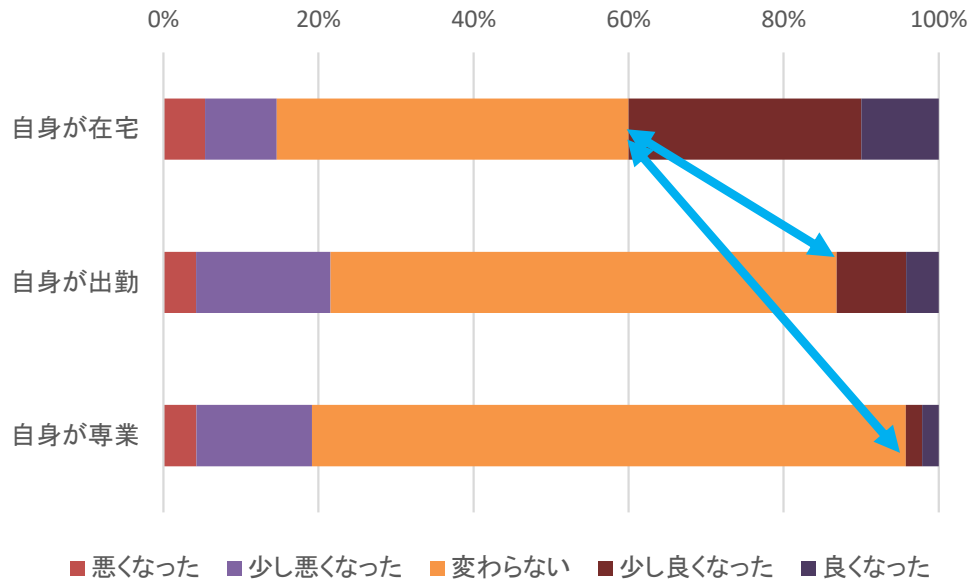
<例:良くなった(余裕が出来た・笑顔が増えた等) 、例:悪くなった(イライラが増えた、喧嘩や叱ることが増えた等) ※パートナーの項目についてはパートナーがいる方のみ >



全体では59.5%が「変わらない」、19%が「悪くなった」、21.5%が「良くなった」と回答。  
勤務状況別では、パートナーの働き方に関わらず、自身が在宅の場合、出勤や専業と比較して、パートナーの機嫌・態度が良くなったと感じる傾向にある。

交互作用が有意ではない。  
自身の出勤状況に有意な差 ( $p < 0.01$ ) が見られる。  
自身が在宅か出勤かで、回答傾向に差あり ( $p < 0.01$ )  
自身が在宅か専業かで、回答傾向に差あり ( $p < 0.01$ )

**⇒パートナーの働き方に関わらず、自身が在宅の場合、パートナーの機嫌・態度が良くなったと感じる傾向にある。**



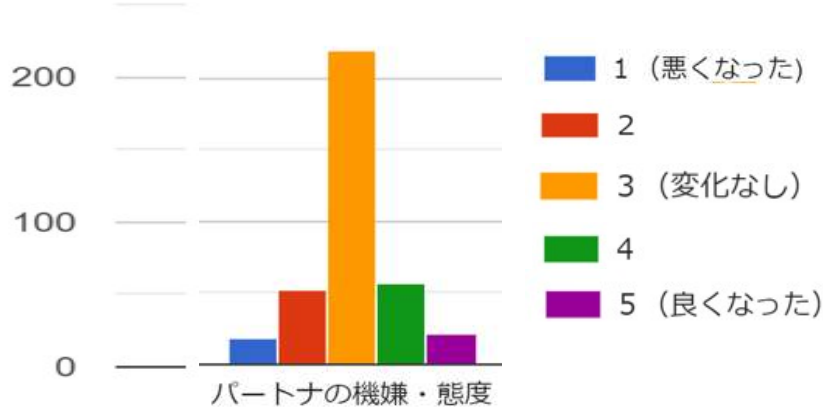
働き方別

n=367

■悪くなった ■少し悪くなった ■変わらない ■少し良くなった ■良くなった

## Q11-D, コロナ禍でご自身が感じる[パートナーへの気持ち]の変化について (n=368)

＜例:良くなった(余裕が出来た・笑顔が増えた等) 、例:悪くなった(イライラが増えた、喧嘩や叱ることが増えた等) ※パートナーの項目についてはパートナーがいる方のみ＞



全体では、61.4%が「変わらない」、16.8%が「悪くなった」、21.8%が「良くなった」と回答。  
働き方別では、自身が在宅の場合、出勤・専業と比べ、パートナーへの気持ちが良くなったと回答する割合が高い。また、パートナーが出勤の場合、在宅・専業と比べ、パートナーへの気持ちが悪くなったと回答する割合が高い。

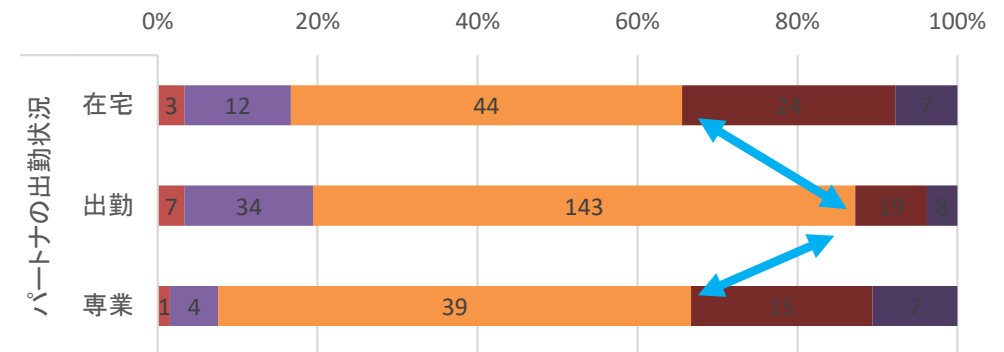
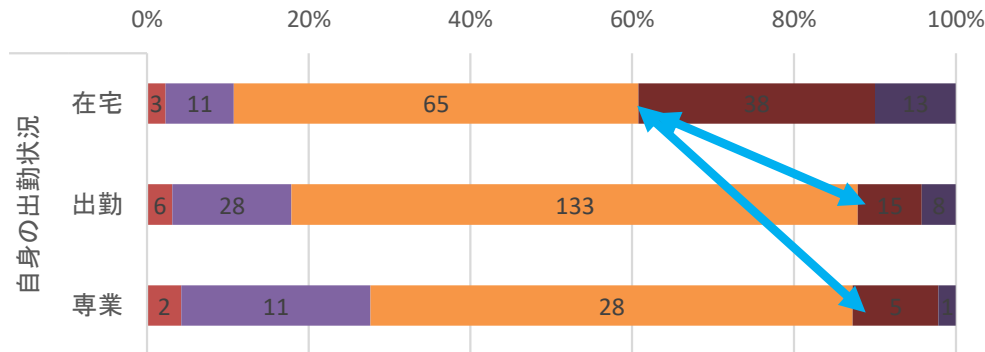
交互作用は有意ではなく、自身の出勤状況とパートナーの出勤状況に主効果がみられた(p<0.01)。  
自身が在宅の人と、出勤/専業の人で有意な差がある。(p<0.01)  
パートナーが出勤している人と、専業・在宅の人で、有意な差がある(p<0.05)

**⇒自身が在宅の場合、パートナーに対する気持ちは良くなる傾向にある。逆に、パートナーが出勤の場合、パートナーに対する気持ちは悪くなる傾向にある。**

パートナーに対するあなたの気持ち  
(自身の出勤状況による違い)

パートナーに対するあなたの気持ち  
(パートナーの出勤状況による違い)

働き方別

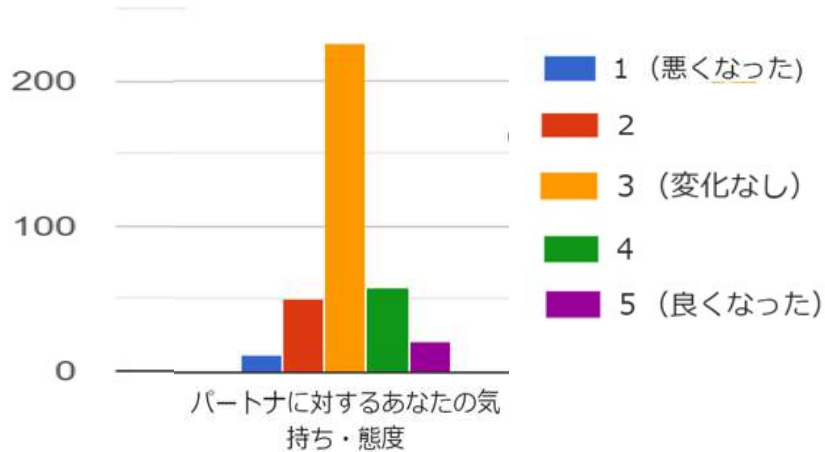


■悪くなった ■少し悪くなった ■変わらない ■少し良くなった ■良くなった

■悪くなった ■少し悪くなった ■変わらない ■少し良くなった ■良くなった



## Q11-D, コロナ禍でご自身を感じる[パートナーへの気持ち]の変化について (n=378)

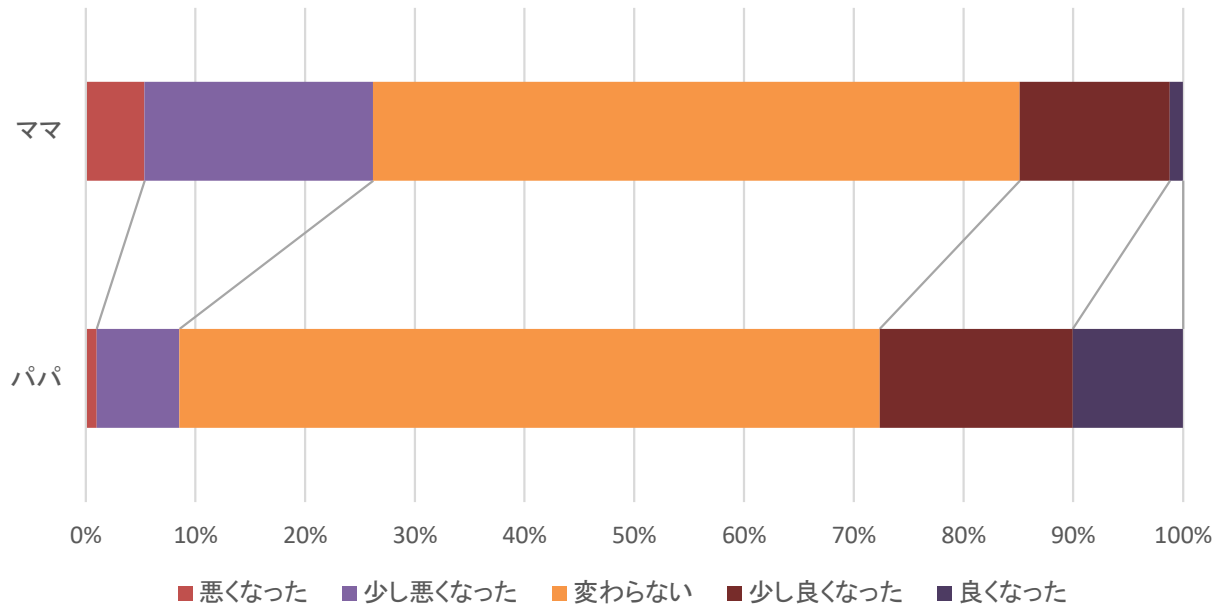


パパとママの回答傾向を比較すると、パパはパートナーへの気持ちが「良くなった／少し良くなった」と回答する割合が高く、ママは「悪くなった／少し悪くなった」と回答する割合が高い。パパとママで、異なる結果となった。

回答者の性別によって、回答傾向に有意な差がみられた。  
具体的には、パパと比較してママのほうが悪くなったと回答(p<0.05)

⇒ **パパはママへの気持ちが良くなったと感じているのに対して、ママはパパへの気持ちが悪くなったと感じている傾向にある**

回答者別



## Q12. Q11をふまえて気になる事等<在宅勤務に関する事>:47件>

### 子ども・家族へのプラスの影響10件

家族で過ごす時間が増えた／コロナ禍で家にいる時間がふえたので、子どもと接する時間が増えて、子どもが少しはなつくようになった／テレワークなので普段妻がしている家事などが分かる為、大変さが伝わる／子どもと向き合う時間が増えると子どもがなぜ機嫌が良いのか悪いかわかるようになるので、子育てがしやすくなった／家族で過ごす時間が増えているのは良い事と思います。／コロナ禍になったことで、在宅になり家でも一緒にいる時間がふえてありがたい／一緒にいる時間が増えたことで 子育ての大変さを理解できた／パートナーと一緒に楽しむことが、子どもへ良い影響を与えていると思います／コロナ禍当初は新しい生活リズム(夫の在宅勤務の開始)に戸惑い、少し喧嘩になったので、一時的にパートナーの態度や私のパートナーへの態度は悪化したことはありました。ですが、それは初めの数か月間で、子どもを含めた全員が快適に過ごせるようなスタイルを探ることができたので、慣れてきた現在は快適に過ごしています。／家族との絆が強くなった

### 子ども・家族へのマイナスの影響17件

コロナ禍で夫の仕事が増えて、家に居なくなった。パパが子どもと遊べていないこと、私の家事の負担が少し増えた。／四六時中子どもと一緒にいるので仕事にならない。これまでできていたことができなくなって、つらい／自宅の在宅ワークが今年の6月ころまで多かったので、子どもと接する時間がおおかったのはとても良かった。7月から在宅ワークがなくなり、切ないのです。子どもとの時間がもっとほしいです／家族の時間が増えたことにより、コミュニケーションがとれる行動に制限がかかることにストレスを感じることもある／2人とも在宅のため、逃げ場がなく、気持ちの切り替えが難しい／テレワークが増えたため、色々な事がめにつくようになったしまった／子どもと過ごす時間がふえて、イライラしているように感じます／家の中で過ごす時間が増えると、子どもが大変／一緒にいて子にイライラしている様子／子どもと接する時間が多くなって、叱ることが多くなった／自分の負担が多くなるばかり。とにかく食事のことを考えなきゃならず、食費も多くかかるのに主人の給料は変わらないため自分が無理をして働かなければいけなくなる／一緒にいる時間が増えてイライラするようになった／在宅の人数が増えたことで、家が汚れやすく掃除が大変。／夫は在宅勤務できない職種なので仕方ないが、仕事と家庭と両方の雑務が私に増え、私の方ばかりに負担がかかっているように感じてしまいます。／在宅勤務により、家がプライベートなだけの空間ではなくなってしまった／テレワーク等で余裕がある家庭が周りに多い中、自分たちは何も変わらず、虚しくなる。／仕事と家事の切り替えが難しい

### パートナーへのプラスの影響3件

夫がリモートワークとなり、家にいてくれることが多いのでリモートワークではない仕事している私(妻)は大変助かる／子どもと関わる時間が増えて関係性が良くなった。パートナーとは深い話ができる／コロナ禍により主人の仕事がかなり繁忙になり家にいる時間が減った為家族での時間が大幅に減った

### パートナーへのマイナスの影響17件

夫のテレワークの邪魔をしてしまう。テレワークになって通勤時間がなくなった分、仕事と家庭の切り替えが難しいのか、仕事のイライラを家庭に持ち込まれる。夫が子どもと過ごす時間が突然長くなって、真面目な夫なので育児ノイローゼのようになってしまっている。／テレワークで夫が在宅しているときの乳幼児の世話は気を遣う。会議のときは外に出たり、掃除機をかけるのもタイミングをはかたりなど／緊急事態宣言中、夫は毎日在宅勤務をしており家事や育児を手伝ってくれたのは助かったが、ペースが乱されてイラッとしてしまうことがあった。また、家にいると夫が四六時中話しかけてるので鬱陶しいと感じることがあった。／テレワークはいいが、テレワークできない時にむしろ妻の機嫌が悪くなり、それが困っている／コロナ禍で飲み会が減ったので、家族と過ごす時間が増えた。ただ、少しずつそういう会が催されているので罪悪感と機嫌が心配／テレワークをお互いにしていた時期でも家事は私がメインだった／コロナ禍にもかかわらず飲みに行こうとされるとイライラする。／旦那が家にいる時間が増えたが、家事や育児の量が変わらないので子どもと接する時間を大切にせねばと思うようになりました

パートナーの気持ち、在宅がなくなり 妻の負担が増えて大変になった／楽しい時もありますが、一緒にいる時間が増えることで衝突が増えることもあります。／自分の負担が増えたのに、思ったより、手伝ってくれないこと。／

自由な時間をすごせないこと。在宅勤務同士でも、自分の方が時間に自由が効くので全部自分が家事をするが、とても不公平な気持ちになる。／主人と別居した／家にいる時間が長い分、パートナーに気になる点はふえたかもしれません。(ゴミを捨てない、片づけてないなど)／・部屋が散らかる。・もう慣れたけど、はじめは夫が飲みに行かなくなったので、毎日食事を作らなくてはいけないのが辛かった。・緊急事態宣言中の休校で授業が遅れているのでは心配。そのため小学生の長女の勉強を宿題以外にみてあげないとならない。／・夫がテレワークで昼・夜を毎日作る事になり、食材がすぐなくなるのに手抜きできず大変だった(子どもの食事サポート・片付けはしてくれたのでそれは助かった。"

## Q12. Q11をふまえて気になる事等<コロナ禍の子育てのこと:49件>

地域に関する事:8件

夏祭りなどのイベントが開催されない／子育て広場に人数制限があったりランチタイムができなかったりする／友達や親戚に赤ちゃんが会えていない／子育てひろばなどがお休みになるなど、外に出られなくなると煮詰まってしまう。／イベントなどが中止になって寂しい／外出しにくくなったり、他の家族と交流する事がやりにくくなった／急な休園や休校が心配。／マスクをつけて子どもを抱っこ紐で持って支援センターまでの坂道を上り降りするのが大変。帰ってきたからの手洗いや、外から持ってきたものを触ったあとの手洗いなど、手洗いの回数が増えて手が荒れる。他人との距離にストレスを感じる。

自身に関する事:11件

自由に出れない、ストレスの発散場所が減る。／何をしたら気分が楽になるのか／心配なことが増えて私自身が不安定になり体調を崩すことが増えてしまった。／園を利用する前までは、家族以外との関わりがなく、孤立を感じた／気持ちの浮き沈みが激しい／ささいなことで怒りやすくなった／イライラすることが増えた／気持ちが煮詰まり、上手にリフレッシュできず「なぜ、私ばかり」と卑屈な気持ちになってしまった。(主人は悪くない)自分の気持ちの問題／出社しなくて良いので、無限に仕事ができる／パートナーの機嫌が変化が激しい。よくイライラしている。／イライラしているのが伝わる

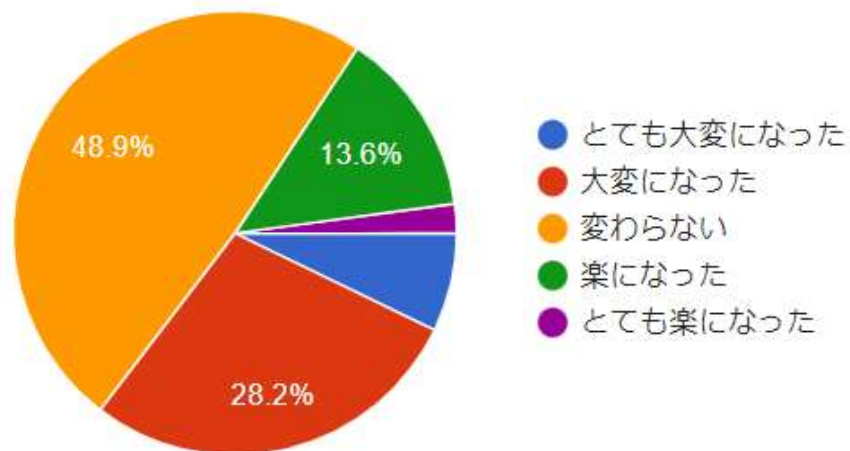
子どもの発達に関する事:18件

自由に外出できなくて場所を選んだり、コロナをきにするあまり子どもに苦痛な思いをさせてしまうことも多々あった／子どもが同年代の子どもたちと接する場が減っていると思うので、その影響が気になっている(良くも悪くも)／感染予防の為、色々なところにつれていってあげられない事や色々な物にふれさせてあげられず、ストレスを感じる事が多い／2歳になる子どもはコロナ禍で子育てひろばなどをあまり利用せず育った。それが原因で発語しないのではないかと周囲から言われることがあり、しんどいことがある。在宅で少し働いている(個人事業主)が、子サポや一時保育も利用しにくく子を預けにくい状況で仕事も捗らず悩んでいる。／平日は子どもを保育園に預けているが、先生たちはマスクをしているため、言葉を習得しにくいのではないかと感じている。／子どもの癩癩がひどくなったコロナの心配でストレスが増えて、子どもに対する態度がきつくなる場合がありますが、同時に命の大切さを意識するようになりあたたかい気持ちも増えたと思います。／コロナ禍で人と会う機会が減り、子どもにドライに接するようになってしまいました。／コロナ禍の為、中々遠くに出かけることが出来ず世間とのギャップが出ていくのではと不安に思うことがあります。(例)ディズニーランドに行ったことがあるお友達はミッキーを知っているけど、自分の子どもは知らない事。／小学生の子どもイベントや行事が激減し、子どもが一生懸命になる機会も減ってしまった。／ゲームやテレビを見る時間が増えた。また、外で身体を使った遊びや自然に触れる機会が減った／感染を恐れるあまり、子どもの行動に対して神経質になってしまうことです。／感染対策について口がうるさくなった。マスクをしていて、子どもも親も表情をよみとりづらい。／気にせず子どもが喜びそうなスポットへ出かけたいです。子どもがマスクできないので人混みが心配です。マスクをしているので、マスクを取った時の顔がわからない。／コロナ禍前は、いろんな友達家族と子連れで遊んだりゆっくり過ごしたりして他の人の子育てに自然に触れ、自分の子育ての迷いや悩みが解消されたり、逆に反省したりするようなことがあったが、それがほぼなくなってしまった。／コロナであまり外出や友達と会ったりすることができず、ストレス発散しづらいこと／一日中家にいることで、子どものストレスが増えた。／マスクをしなくてはいけないのに嫌がってしてくれなくて大変だった。

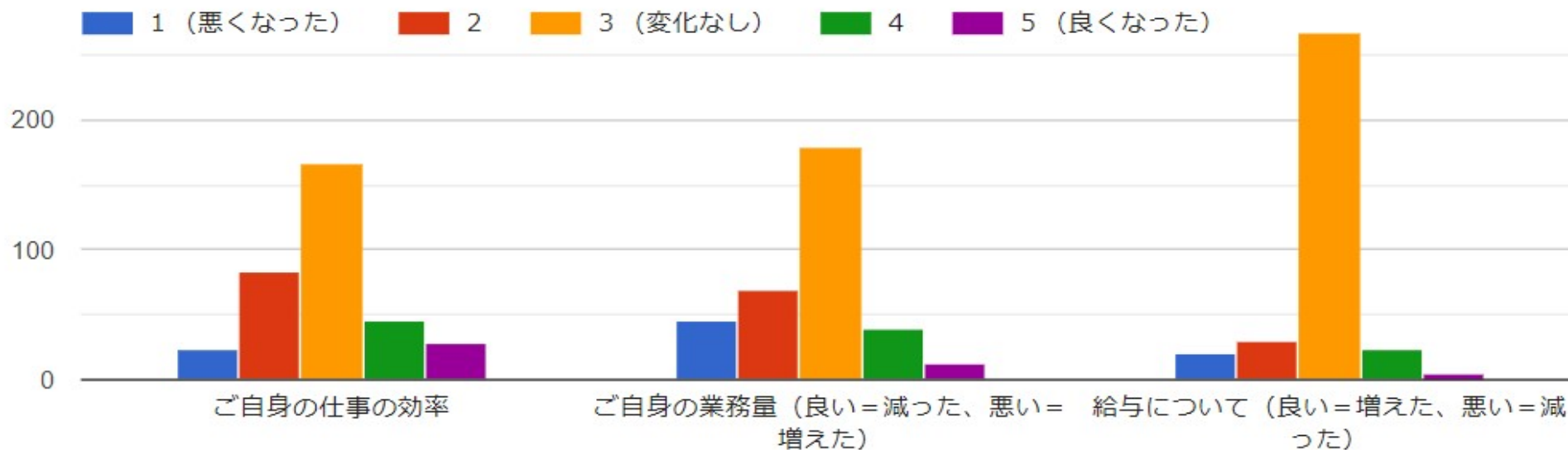
コロナ禍がスタンダードになり気にならない:12件

子どもが産まれてすぐにコロナ禍になったので、変化というよりコロナ前を知らない。パートナーとはコロナででかける先が減ってしまったのはある。／コロナ禍での出産 育児でしたので、コロナ前がわかりません。現在の状況がノーマルと感じている／コロナ禍で産まれたので変化が無い／コロナ前には産まれたばかりでわかりません。／コロナ後の出産のため省略 前後の変化は省略／コロナ禍が始まってから子どもが産まれたので、子どもに対することは変化なしか妻のストレスが少し増えたように感じる／子どもが産まれる前からテレワークをしていたので、あまり気持ちの変化はないです。出産時からコロナ禍だったので変化なし／コロナ禍の中での妊娠・出産だったのであまり変化なしです／コロナ禍からの育児のため、比較はできないが、コロナ禍のおかげでリモートできており、助かったと思っています／コロナ禍だからというのはいりません(コロナ禍に生まれたので)／コロナ禍の中での出産だったので、子育ての変化は分からないが、少なくとも家事負担が一方的に女性側に増えた。夫は在宅勤務でも、ただ家で仕事するだけで家事育児の負担がさほど増えていない(ように感じる)ため、仕事復帰にあたり仕事?家事?育児の三足の草鞋になりそうで非常に不安を感じる。外では「在宅勤務だから助かるでしょ」と言われるが、違和感を感じる。在宅だとお昼ご飯の準備など、むしろ「大変でしょ」と思う。

Q13, コロナ禍でご自身の仕事に対する変化があったらおしえてください。(n=376)



Q14, コロナ禍でご自身の仕事に対する変化内訳 (n=347)





## Q15. 保護者の働き方による子ども達への影響・課題についての自由記述:70件(抜粋)

在宅勤務の肯定:20件

(肯定意見の抜粋)

- ・両親そろってご飯を食べられる機会が圧倒的に増えた
- ・夫がテレワークになったぶん、通勤時間だったところで家事をやってくれるのでとても助かる。  
でも夫のメンタルを考えると、テレワークより出社したほうが良いように思うので、テレワークを全肯定する気持ちはない。
- ・緊急事態宣言中は旦那が職場へ直行直帰になったので子どもといられる時間が増えてよかった。
- ・飲み会がなくなったので家族で過ごせる時間が増えた
- ・在宅ワークが主流になったことで両立しやすい。
- ・テレワークが週一でもできるようになり、朝に余裕ができ子どもと余裕をもって接することができている。また普段より早くお迎えができ、子どもも嬉しそうです。
- ・夫がリモートワークで家にいるので、共働きの妻としては、早く家に帰らないという気持ちがなくなり、ラクに感じている
- ・コロナ禍でも夫はテレワークのできない職種なのでできるようになればいいなと思います。
- ・いざという時には仕事を任せて帰れると感じ、親の精神面も少し安定しストレスが減ると思う。  
結果的に、子どもに接する時も余裕をもって関われ、子どもの心を守ることに繋がると思う。
- ・夫の在宅勤務の日が稀にできた事で、夕食を家族そろってとれる日が増えた。子が病気の時も夫の在宅勤務の選択肢があることで、夫婦で協力できるようになった。その事により子どもの負担も減ったように思う。今後より一層働き方の選択肢が増え、また選択しやすいようになるとよいと思う。

それぞれの働き方に関する課題:21件

- ・夫がシフト制の為家事が一人でやることになるのがなかなか辛い時もある
- ・専業主婦世帯×在宅勤務だと、夫婦で子どもに向き合わなくてはいけなくなり、休める時間がもてない
- ・妻が在宅ワーク多め、私は全て出社なので子どもとの心の距離が嫌われないか心配です。また、妻に育児・家事のストレスが多くかかっているの、いつか爆発しないか心配です。
- ・子どもが体調を崩した時、どちらかが仕事を休んでも、在宅なので集中できない。
- ・夫とケンカをすることが増えて心配です。
- ・夫婦お互いが「自分の時間」を作るのに苦勞しています。
- ・ママが帰る時間が遅くなり子どもたちが寂しがることが増えた。
- ・在宅勤務を選べる仕事ではなく通勤や仕事でどうしても他の人と接するので、子どもたちにうつさないか心配している。
- ・在宅業務で家族がいると、子ども達は親がいるのになぜ相手をしてくれないという気持ちになる。
- ・親が家に居るなら休みたい。など、今までとは違う感情が出てきていると思います。
- ・テレワーク等が進んで家族の時間が増えている家庭が多い中、上記でもあげたように、家族との時間が我が家は限られており、子どもに申し訳なく思う。
- ・良くも悪くも自分自身の機嫌が子どもに対しても出てしまう。働くことで色々とストレスが出てくるが、原因を見つけて早くに対処するように気を付けている。"子ども達が横で泣いていれば仕事にならないと思います。"
- ・自分が医療従事者であり、職場でプライベートの旅行や外食について制限されてしまい、旅行や外食を経験する機会をそがれている。もうすぐ3歳なのに旅行経験0のまま。
- ・自宅に書斎がないので、テレワークスペースがなく集中できる環境がない

## Q16. コロナ禍で特に困った子育て施設や子育てサービスの制限は？ <3つまで選択>(n=333)

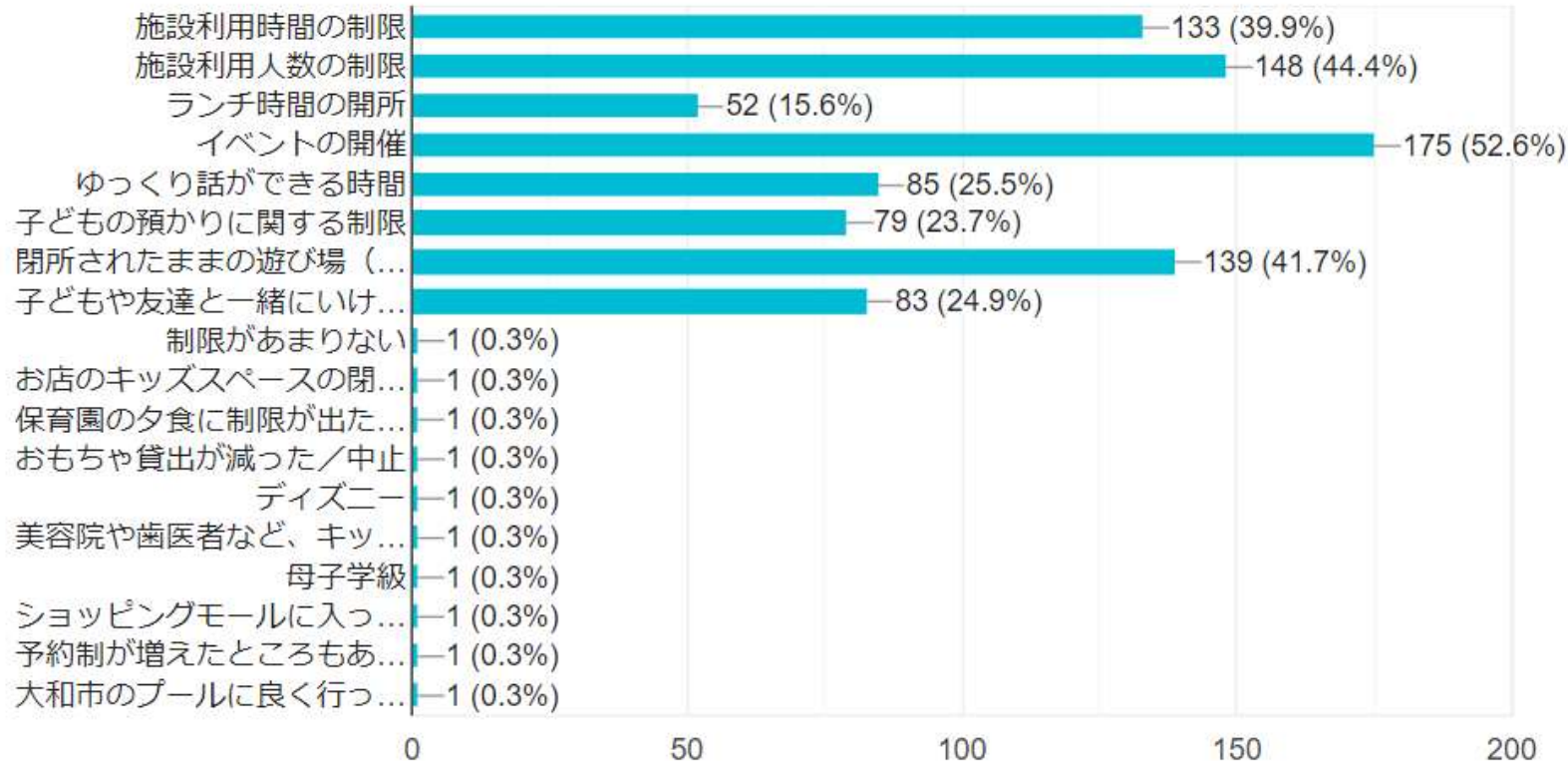
**1位: イベントの開催: 52.6%**

**2位: 施設利用人数の制限: 44.4%**

**3位: 閉所されたままの遊び場: 41.7%**

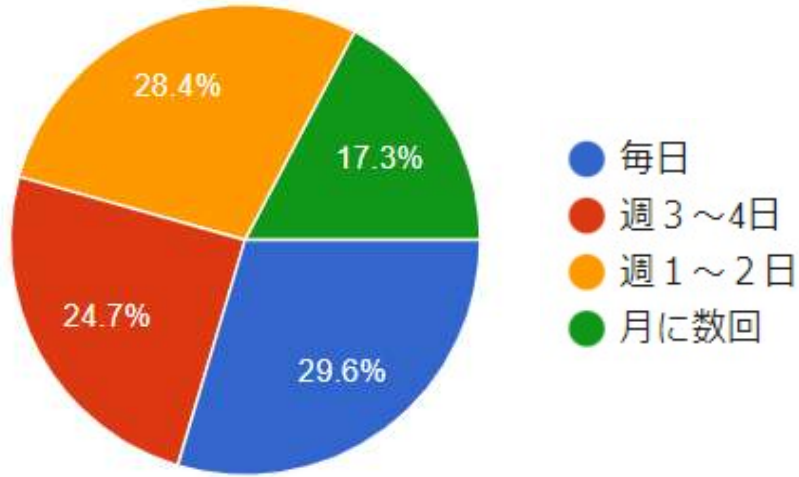
### <こんなご意見も>

夏祭りなどのイベントが開催されない  
 子育て広場に人数制限があったりランチタイムができなかったりする  
 子育てひろばなどがお休みになるなど、外に出られなくなると煮詰まってしまう。  
 イベントなどが中止になって寂しい  
 外出しにくくなったり、他の家族と交流する事がやりにくくなった  
 マスクをつけて子どもを抱っこ紐で持って支援センターまでの坂道を上り降りするのが大変。  
 帰ってきたからの手洗いや、外から持ってきたものを触ったあとの手洗いなど、手洗いの回数が増えて手が荒れる。他人との距離にストレスを感じる。  
 コロナ禍で人との接点が減る分、交流も少なくなり、子どもたちが育っていく上で必要なコミュニケーション面が育ちにくなっていると思うので、親同士で何かしら感染対策をしながら集まる機会を作ったりなどしている。  
 土日でも夫婦で参加できるイベントが続いてくれると嬉しいです

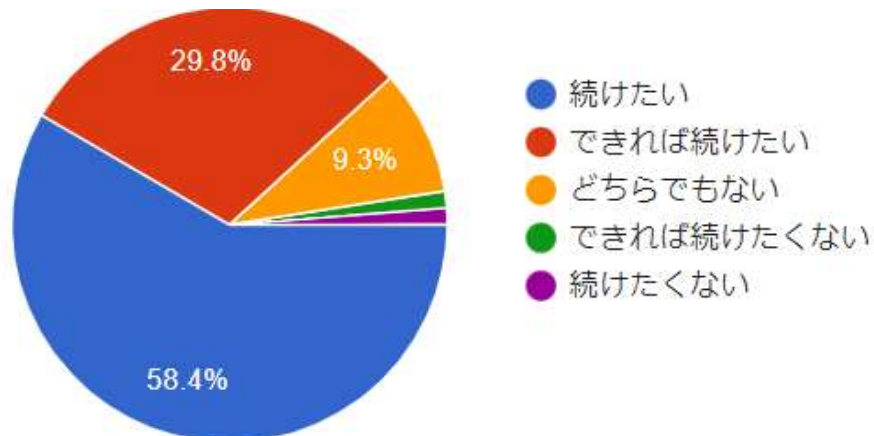




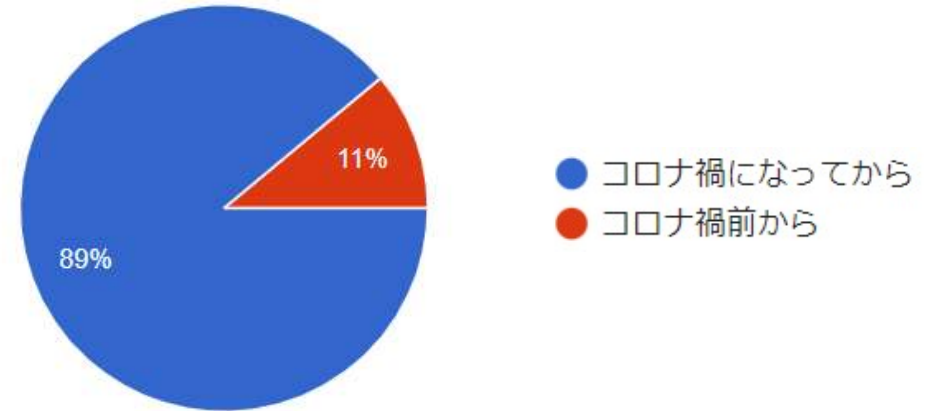
## Q17. 在宅勤務者の在宅勤務の頻度(n=162)



## Q20. 生活全般を見据えて、(ご自身またはパートナーに)在宅勤務をこのまま続けたい(続けてほしい)と思いますか？



## Q18. いつ頃から在宅勤務ですか(n=163)



## Q21. 在宅勤務を続けたい理由(n=103)

全体: 1位 家族一緒に過ごす時間の確保 38件  
103件 2位 家事育児時間の増加 20件  
3位 在宅勤務を実施する上での課題について 12件

### 回答者別

パパ: 1位 家族と一緒に過ごす時間の確保 29件  
62件 2位 家事育児時間の増加 11件  
3位 在宅勤務を実施する上での課題について 7件

ママ: 1位 家族と一緒に過ごす時間の確保 9件  
41件 家事育児時間の増加 9件  
3位 パートナーがいることで安心感がある 5件

- 在宅勤務は、約半数が利用していた(約45%)
- コロナ禍により、全体的に家事育児時間は増加していた。  
特に、在宅勤務者の家事育児時間が増加していた。
- 在宅勤務者は出勤・専業と比べ、“こどもの機嫌・態度”、“こどもへの気持ち”、“パートナーへの気持ち”が改善する傾向にあった。  
→「家族時間が確保できた」、「妻の様子が分かった」などの声
- 自身が専業の場合、“こどもへの気持ち”が悪くなったと感じる傾向にあった。  
→「負担増」、「家が仕事場になってしまう」、「こどもを大人しくさせないと」などの声
- コロナ禍以降、夫は「妻との関係性が良くなった」と感じる傾向にあるのに対し、妻は「夫との関係性が悪くなった」と感じる傾向にあった。
- コロナ禍での出産がスタンダードになり、変化を感じなくなりつつある。
- 働き方の違いにより、子育ての負担感が顕著になる。

## 今後の支援にむけて

### 『在宅勤務増加に伴う子育て負担と子どもへ与える影響の実態調査』コメント

横浜市は、テレワークの比率が全国に比べて高い。コロナで大きく働き方を変えなくてはならない時、家族（とくに父親）が『家にいることがプラスになった人』・『家にいることがマイナスになった人』に二極化している。例えば、『テレワークで、家族の時間が増えた』というパパもいれば、『パパが家にいることがすごくストレスになっている』というママがいる。コロナ禍以降、働き方が変わったことにより、家族のライフスタイルや子育てのあり方に大きな変化がおきていることが今（このデータの分析で）分かったということになる。

このことは、子育て支援者もしっかりと理解していく必要がある。働き方や家族の在り方、夫婦の関係性が、今の子育てにどう影響しているのか、支援者がどのように理解し、活動に活かしていくのか、という視点が大切になってくる。

これまでの子育て支援は、施設へ来所した家族に対するものが中心だった。が、今後は、各々の家族の背景（家族の在り方、夫婦の関係性、働き方等）まで少し意識していく必要があるといえる。特に、コロナ禍以降の変化を経て、どのようなニーズがあるのかということのカテゴライズし、そこに合わせた子育て支援の在り方、サービス・支援の方法を考えていく必要がある。

例えば、今までの子育て支援は均一に子どもと親の関係性を見てきた。これは子育て支援の入り口としては正解だが、辛さ・大変さをかかえた親子をより深くサポートするならば、背景や家族の理解が必要である。コロナ禍以降の変化の激しい社会の中で辛さを抱えているママやパパがいることを、支援者が本データを活用しながら理解し、子育て支援者研修・子育て支援者がママやパパと話をするとき伝えることができると思う。

現在の家族は、カプセルに入っているようなもので1つ1つの家庭をお互いに見ることができていない。他の家族・家庭がどうなのかが分からず、意外にそういう話が出来ていない。このデータは、横浜の家族の1つの側面を一般化している。他の家族がそれを見たとき、自分たちと（比べるという目的ではなく）同じように大変で、みんな一緒なんだという共感、安心にもつながっていくのではないかと思う。コロナ禍以降劇的に変化している子育て環境のなかで、より深い子育て支援のため、本データを参考資料にしていくことができるのではないかと考える。

大阪教育大学教授 小崎恭弘

## 今後の支援につながる有効性

### 報告書の作成(冊子)

#### 配布予定:

自治体:神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、逗子市、平塚市

子育て支援団体:102施設(子育て支援センター、保育園、幼稚園、認定こども園)

地域:民生委員、主任児童委員、青少年指導員、協力企業

他:当法人、関連法人(NPO法人ファザーリング・ジャパン等)、ホームページで公開

## 今後の事業の活用

父親支援を実施する中で、有効性の高い物を講演会で説明

## 解決すべき問題

子育て当事者は母親だけでなく、父親も妻の気持ちを支えながら、家事育児の参画を実施し、児童虐待を未然に防ぐ活動に貢献していく